HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	水無川縁起
Author(s)	芒亭
Citation	各務同窓会報，高農創立十周年記念特別号
Issue Date	1934-12-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77698
Type	article
File Information	A010_04P57_59.S91222.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

して居るK教授に宅を訪問せられたのであつた。獨乙に行つたらハンブルグの殖民博物館を是非見て來いと云はれたのも此時であつた。今私は無性物の特色を發揮して先生の教へに從はなかつた事を深く遺憾に思つて居る其時は其外健康上の事や色々と御注意を頂いてお別れした。今にして思へば之が先生との永久のお別れとなつたのである。

水無ヶ原緣起

芒　春

さうだ。隨分古い話である。那加驛から中山道迄の大通りから高農の東の側面が麥畑の上に何のさへぎるものもなく見とうしが出來た頃の話である。

其頃誰が云ひ出したか忘れたが、兎に角學生の間に、臺地に何か新らしく名前をつけやうじやないかと云ふ說が起つた。何もかも新らしく生れたばかりの高農の其門の新生の氣の漲つて居た寮園氣の中には當然の事の樣に思はれた。

そこで學生の內から地名を募集するといふ事になり私がその選者にされた。その頃は萬事とても朗らかで、冗氣で、こんな面白い募集でもあると應募せぬ者は一人も無いと云ふ位であつた。

さて其時どんな地名が出て來たか。私は今記憶して居ないけれど、金華山や長良川や木曾川に結びつけた樣なものや、とてもセンチメンタルな女學生好みと云つた樣な地名も相當にあつた樣である。「憧がれの丘」とか「光の原」とか「白露の臺」と云つた樣な類である。それらの地名を一つ一つ考へながら見て行く內に「水無ヶ原」と云ふのが出て來た時、私は思はず卓をたゝいて感心してしまつたのである。

日本は世界一の地名の多い國で、そんな事を調べてゐる學者の云ふ所によると、何でも全國を通じて地名と呼び得るものが三千萬以上もあるとの事である。然しそんなに矢鱈にありながらも、どの一つの地名でも、それが古くから呼びならされて居るものは、皆地名としての一種の風格と云ふものを必ず持つて居る樣である。兎に角皆相當所謂板について居る樣である。近頃出來た地名には外國の詩の中からとつて來た樣なものがあるが、あんなのは日本ぢやない樣な氣がする。在來の地名の內には何の意味か分らないものが多いけれども、どの一つをとつて見ても、其語調と云ひ文學に書いた場合の形と云ひ、何れも如何にも地名にふさわしいものばかりである。たしかに地名には地名の型がある樣である。

「水無ヶ原」と云ふ地名は、左の樣な意味から批判してもたしかに相當なものである。日本の地圖のどこかに今一つ位はこれと同じ地名がありさうな氣がする。

然し此地名の優秀な理由は寧ろ次の點に有するのである。それは、こゝで云つてよいか惡いか知らぬが、何でも創立當時學校と縣廳かどこかと水田を作る水が無いと云ふ事で相當ごた〳〵があつたらしいので、此事を聯分諷刺した意味が、「水無ヶ原」と云ふ地名には含蓄されて居たのである。だから「水無ヶ原」と云ふ名稱を選出した後で、確か汽車の中かどこかで、東海林校長にその話しをお聞かせした時、校長は思はず微苦笑されて「成程良く出來すぎて困つたなア」と云ふ樣な表情をされて居た。そして「水田問題が解決するまではどうも……」と云はれながらしきりに苦笑して居られた。內心餘程感心して居られたのであらう。

そんな譯で「水無ヶ原」と云ふ名稱は、當時大げさに一齊に發表すると云ふ事はしないで、水田問題も解決した頃から何時とはなしに呼びなされる樣になつて來たのである。

若し「水無ヶ原」と云ふ地名が、單に水が餘も無い原と云ふ丈の意味しかもつて居ないなら、此地名は各務ケ原の高農のあたりの一角に名づけた地名としては、餘りに個性の臭いが少なすぎる樣に思はれる。此地名が先の水田問題とからんで來ると、此地名には有りすぎる程の個性の表現がそこに織り込まれて居ると思ふ。卽ち此地名の中に岐阜高農發展史の一節が表現されて居る譯である。

凡そ地名の起りはどこでもと云ふ譯ではないが、最初こんなにして出來た場合は隨分多からうと思ふ。

卽ち其處を自分達の生活の舞臺にして居る人々が、自分達の經驗に深い意味を持つた事柄に結びつけて名をつけた場合が最も多かつたであらう。その意味に於いて多くの地名は元來主觀的な意味丈から生じたものであらう。他の地方の人には其を與へられたる地名として其儘に承認したものであらう。地形に關係した地名がよくあるが其場合でも地形の客化的個性が其儘に地名となるのではなくして、其が其處に住んで居る人々の生活に強い利害や興味を持たしたが爲に地名となつた場合が多いであらう。

春去り春來り、一年一昔。其頃雲雀がよく鳴いてゐた麥畑は、境川放水路工事の後小石の原になつてゐる。小石の間に今も雲雀は巢くつて居ると見えて春先きともなれば、今も雲雀の鳥籠が幾十となく白い布に包まれて竝べてある。鳴き聲を學ばしむる爲にと云ふ。

昔麥畑の中から舞ひ立つて居た風情は見るかげもない。

現在の「水無ヶ原」の最もよい全貌を見たいなら、境川放水路の堤防を西に行く事數町餘、ふり返つて農場と共に本校舍二棟の景觀を見るがよい。日夜にまだ相當時間年六月に那加に移住し現在に至つた譯であるが、始めて學校の敎官になつた當時を追想して見ると、全く汗顏の至りで冷汗三斗の想がする。赴任後一週間位で始めて實習の手傳をしたのだが、第一回卒業生諸氏が三學年當時である。當時の學生諸君の中には私よりも年齡の多い人も數人居た樣に記憶する。仲々元氣溌剌たる者ばかりで經驗のない私は大いにヤジられ、